令和６年度第１回公立大学法人公立鳥取環境大学評価委員会　次第

日時　令和６年５月１６日（木）
　　午後１時３０分から４時まで
場所　公立鳥取環境大学大会議室（大学本部・講義棟３階）

１　開会

２　学生との意見交換
・環境学部　　山田　茜里さん（４年）、小林　碧志さん（３年）
・経営学部　　今岡　飛翔さん（４年）、小林　歩未さん（３年）

３　教員との意見交換
・環境学部　准教授　川口　有美子
・経営学部　教授　　光山　博敏

４　学長あいさつ・大学の近況報告、意見交換

５　令和６年度の評価実施方法に係る意見交換

６　その他

資料１　公立鳥取環境大学の近況
資料２　令和６年度第１回公立大学法人公立鳥取環境大学評価委員会の進行等について

令和6年度第1回公立大学法人公立鳥取環境大学評価委員会　出席者名簿

区　分		役 職 等	氏 名	学生との意見交換 13:40～:14:20	教員との意見交換 14:20～14:50	幹部との意見交換 15:00～15:30	評価実施方法に係る意見交換 15:30～16:00
公立大学法人公立鳥取環境大学評価委員会		委 員	中山　貴雄	○	○	○	○
		委 員	千田　亮吉	欠	欠	欠	欠
		委 員	松本　啓介	○	○	○	○
		委 員	中井　英子	欠	欠	欠	欠
		委 員	上田　理恵子	○	○	○	○
公立大学法人公立鳥取環境大学		理事長兼学長	小林　朋道			○	
		副理事長	寺口　嘉昭			○	
		理事兼副学長	中山　実郎			○	
		理事兼事務局長	田中　洋介			○	
		副学長	根本　昌彦			○	
		環境学部長	張　漢賢			欠	
		経営学部長	吉田　高文			○	
		人間形成教育センター長	今井　正和			○	
		環境学部准教授	川口　有美子		○		
		経営学部教授	光山　博敏		○		
		環境学部4年	山田　茜里	○			
		環境学部3年	小林　碧志	○			
		経営学部4年	今岡　飛翔	○			
		経営学部3年	小林　歩未	○			
新生公立鳥取環境大学運営協議会事務局	鳥取県子ども家庭部	総合教育推進課長（事務局長）	木村　雄二	○	○	○	○
		総合教育推進課参事	佐々木真人	○	○	○	○
	鳥取市企画推進部	政策企画課長	上田　貴洋	○	○	○	○
		政策企画課主任	金森のぞみ	○	○	○	○

資料1

公立鳥取環境大学の近況

令和６年５月

公立大学法人公立鳥取環境大学

1　公立鳥取環境大学の在籍者数

令和6年5月1日現在

〔学部〕

休学者は内数　　単位:人

学部名	入学定員	令和6年度生(2024)			令和5年度生(2023)			令和4年度生(2022)			令和3年度生(2021)			令和2年度以前		合計	
		入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	休学	在籍	休学	在籍
環境学部	150	159		159	161	(2)	161	158	(1)	155	160	(1)	151	(7)	29	(11)	655
経営学部	150	166		166	159	(2)	157	165	(3)	160	159	(6)	150	(3)	18	(14)	651
総計	300	325		325	320	(4)	318	323	(4)	315	319	(7)	301	(10)	47	(25)	1,306

うち留学生(私費外国人留学生入試・県費留学生)

環境学部	若干	5		5	2	0	2	4	0	4	6	0	6	0	2	0	19
経営学部	若干	4		4	2	0	2	2	0	2	2	0	2	0	1	0	11
総計		9		9	4	0	4	6	0	6	8	0	8	0	3	0	30
		中国8 ミャンマー1			中国2 台湾1 ベトナム1			中国3 台湾2 マレーシア1			中国6 香港1 ネパール1			中国1 韓国2			

〔大学院〕

休学者は内数　　単位:人

領域名	入学定員	令和6年度生(2024)			令和5年度生(2023)			令和4年度以前		合計	
		入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	休学	在籍	休学	在籍
環境学専攻	10	3		3	7	1	7	0	1	1	11
経営学専攻	5	0		0	1	0	1	0	0	0	1
総計	15	3		3	8	1	8	0	1	1	12
うち留学生		中国1 (環境学専攻)			中国1 (環境学専攻)						

２　令和6年度入試　実施状況

・令和6年4月の県内入学者の割合は21.2％（環境学部:16.4％、経営学部：25.9％）となり、令和5年度の23.4％より若干の減少となりました。

・全国的な少子化や大都市の私立大を向く学生が増えてきている状況の中、今後さらに本学への進学につながるように県内の高等学校との連携を深め、また、教育委員会とも連携した取り組みを進めます。

・新学長による、県内全高等学校長への訪問を5～6月に予定しており、より一層の関係構築に取り組み、県内志願者の増加に取り組みます。

・令和6年度のオープンキャンパスは、8月3日（土）、4日（日）：来場型、5日（月）：Web型の2種類計3日での開催実施を計画しています。

・西部サテライトキャンパスを令和5年10月に米子駅近くに移転し、産官学連携の拠点として利用すると共に、高校との連携時にも利用していきます。

（学部1年次）

学部	環境学部			経営学部			合計		
募集人員	150			150			300		
志願者数	**398**	うち県内	57	**480**	うち県内	127	**878**	うち県内	184
合格者数	**189**	うち県内	26	**232**	うち県内	47	**421**	うち県内	73
入学者数	**159**	うち県内	26	**166**	うち県内	43	**325**	うち県内	69

（3年次編入学）

学部	環境学部	経営学部	合計
募集人員	若干名	若干名	若干名
志願者数	1	7	8
合格者数	0	3	3
入学者数	**0**	**3**	**3**

（大学院）

専攻	環境学	経営学	合計
募集人員	10	5	15
志願者数	4	1	5
合格者数	4	0	4
入学者数	**3**	**0**	**3**

（注）入学者には外国人留学生各1名を含む。（環境学専攻）

鳥取県内入学者等状況

入試年度		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度		
内訳		全体	県内	割合	全体	県内	割合	全体	県内	割合	全体	県内	割合	全体	県内	割合
環境学部	志願者	555	41	7.4%	556	62	11.2%	498	79	15.9%	604	114	18.9%	398	57	14.3%
	合格者	182	12	6.6%	185	26	14.1%	189	32	16.9%	184	38	20.7%	189	26	13.8%
	入学者	152	10	6.6%	159	26	16.4%	158	31	19.6%	161	37	23.0%	159	26	16.4%
経営学部	志願者	805	124	15.4%	788	139	17.6%	765	147	19.2%	692	128	18.5%	480	127	26.5%
	合格者	248	40	16.1%	254	45	17.7%	260	49	18.8%	236	39	16.5%	232	47	20.3%
	入学者	154	39	25.3%	156	41	26.3%	165	42	25.5%	159	38	23.9%	166	43	25.9%
両学部合計	志願者	1,360	165	12.1%	1,344	201	15.0%	1,263	226	17.9%	1,296	242	18.7%	878	184	21.0%
	合格者	430	52	12.1%	439	71	16.2%	449	81	18.0%	420	77	18.3%	421	73	17.3%
	入学者	306	49	16.0%	315	67	21.3%	323	73	22.6%	320	75	23.4%	325	69	21.2%

令和6年度都道府県別集計

【全入試区分】※編入学除く

	志願者			合格者			入学者		
都道府県	環境	経営	計	環境	経営	計	環境	経営	計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人
北海道	4	2	6	2	1	3	2	1	3
青森県		1	1		1	1		1	1
岩手県									
宮城県	1		1	1		1	1		1
秋田県									
山形県									
福島県		1	1						
茨城県	8	2	10	1	1	2	1	1	2
栃木県	3	4	7	1	3	4	1		1
群馬県	2	2	4	1		1	1		1
埼玉県		1	1		1	1			
千葉県	2		2	1		1	1		1
東京都	4	1	5	1	1	2	1		1
神奈川県	1	1	2		1	1		1	1
新潟県	2	1	3	2	1	3	2	1	3
富山県	6	4	10	3	3	6	3	3	6
石川県	3	1	4	1	1	2	1	1	2
福井県	1	2	3	1	2	3	1	1	2
山梨県		1	1		1	1			
長野県	7	2	9	4		4	4		4
岐阜県	13	7	20	6	3	9	4	1	5
静岡県	10	10	20	5	4	9	3	2	5
愛知県	20	14	34	11	8	19	6	3	9
三重県	5	13	18	1	9	10	1	1	2
滋賀県	1	1	2	1		1	1		1
京都府	11	14	25	7	10	17	5	7	12
大阪府	20	18	38	10	10	20	9	8	17
兵庫県	44	62	106	22	29	51	20	25	45
奈良県	2	1	3	2		2			
和歌山県	11	7	18	5	4	9	5	3	8
鳥取県	57	127	184	26	47	73	26	43	69
島根県	10	30	40	6	15	21	6	13	19
岡山県	37	64	101	15	33	48	8	18	26
広島県	28	24	52	10	9	19	9	5	14
山口県	5	2	7	1	1	2		1	1
徳島県	4	11	15	4	8	12	4	6	10
香川県	6	1	7	4	1	5	3	1	4
愛媛県	11	9	20	6	6	12	5	5	10
高知県	9	3	12	2	1	3	2	1	3
福岡県	10	1	11	7	1	8	6	1	7
佐賀県	2	5	7	1	2	3	1	1	2
長崎県	9	6	15	3	2	5	3	2	5
熊本県	1		1	1		1	1		1
大分県	5	3	8	4	2	6	4	1	5
宮崎県	2		2	1		1			
鹿児島県	4	2	6	2	2	4	2	2	4
沖縄県	1	1	2	1	1	2	1	1	2
その他	16	18	34	6	7	13	5	5	10
計	398	480	878	189	232	421	159	166	325

注1：都道府県は出身高校（高等専門学校を含む）の所在地による。

注2：「その他」は高卒認定、専修学校の高等課程、留学生等、高校を卒業していない者。

令和７（2025）年度入試の概要

			出願	試験日	合格発表	募集定員	
						環境学部	経営学部
総合型選抜			9 月 13 日～9 月 25 日	10 月 12、13 日	11 月 1 日	20	20
学校推薦型選抜	Ⅰ型		11 月 1 日～11 月 11 日	11 月 23、24 日	12 月 3 日	30	45
	Ⅱ型（※）		1 月 20 日～1 月 28 日	2 月 2 日	2 月 10 日	10	10
	Ⅲ型（※）		11 月 1 日～11 月 7 日	11 月 16、17、18 日のいずれか	12 月 3 日	15	－
一般選抜	前期日程	Ａ方式	1 月 27 日～2 月 5 日	2 月 25 日	3 月 6 日	60	50
		Ｂ方式				10	15
	後期日程			3 月 13 日	3 月 21 日	5	10

※　県内高校出身者に限定

3　2023年度就職活動状況報告書（2024年3月卒業・修了）

2024/3/31時点

1．学部別状況

		全　学	環境学部	経営学部
①	卒業見込者	267	129	138
②	就職希望者	237	110	127
③	内定者数	235	110	125
④	就職（内定）率	99.2%	100.0%	98.4%
⑤	前年同時期内定率	98.7%	99.0%	98.4%

＜鳥取県内就職関連＞

		全　学	環境学部	経営学部
⑥	③のうち県内企業就職（内定）者数	45	16	29
⑦	内定者のうち県内就職（内定）率	19.1%	14.5%	23.2%
⑧	前年度県内就職率（2023/3末）	21.5%	20.8%	22.0%
⑨	③のうち県内出身者数	41	9	32
※	③のうち第一希望勤務地が鳥取県の学生	39	11	28
⑩	県内出身者の県内就職（内定）者数	28	7	21
⑪	県内出身者の県内就職（内定）率	68.3%	77.8%	65.6%
⑫	内定者のうち県外出身者数	194	101	93
⑬	県外出身者の県内就職（内定）者数	17	9	8
⑭	県外出身者の県内就職（内定）率	8.8%	8.9%	8.6%

2．就職(内定）先

※ 業種は総務省「日本標準産業分類」に準ずる。持ち株会社は金融業に該当するが、内定先業種での分類とする。

【環境学部】

※ 学生が提出した進路決定届を集計するため実際の内定状況と乖離あり。青字は上場企業、下線は非正規雇用。

	業　種	鳥取県外企業	鳥取県内（関連）企業
A	農業、林業		ひよこカンパニー
D	建設業	大成温調、ユニバーサル園芸社、TOTOアクアエンジ、フソウ、グリーンライフ産業、タケウチ、福田造園土木、AQグループ、戸田道路	ウッズカンパニー、ヤマタホールディングス、千代田工務店
E	製造業	岩谷瓦斯、豊生ブレーキ工業、三和シヤッター工業、マルヤナギ小倉屋、北四国グラビア印刷、銘建工業、日本植生、ロマンライフ、ヒューテック、深江化成、長門牧場、大島造船所、北海道フーズ	
F	電気・ガス・熱供給・水道業	九州電力、NTTアノードエナジー、大分ガス	
G	情報通信業	富士ソフト、大京システム開発、南日本情報処理センター、日本テクノストラクチャア、MAHOFILM	鳥取県情報センター（2）
H	運輸業、郵便業	北海道旅客鉄道、中日本航空	
I	卸売業、小売業	山善、矢崎総業（3）、シマブンコーポレーション、コネクシオ、日比谷花壇、キタムラ、武田メガネ、アピ、ベクトル、明屋書店、クックチャムプラスシー、西日本フード、ライド、エース、ITX、セビア、VHリテールサービス、ゾフ	
J	金融業、保険業	阿波銀行、山陰合同銀行	鳥取銀行、あいおいニッセイ同和損害保険（鳥取市）
K	不動産業、物品賃貸業	関西不動産販売、三交不動産	
L	学術研究、専門・技術サービス	NJS、大洋エンジニアリング（2）、三井開発、九州シビル、ノースサンド、鹿児島土木設計	
M	宿泊業、飲食サービス業	メトロプロパティーズ	
N	生活関連サービス業、娯楽業		
O	教育、学習支援業	東京動物園協会、石川県教育委員会、徳島県教育委員会、大分県教育委員会、大阪市教育委員会、丹波篠山市教育委員会、沖縄県南大東村村営塾	鳥取県教育委員会（2）、鳥取県教育委員会
P	医療、福祉	ケアサービス	労働者健康安全機構（山陰労災病院）、鳥取県保健事業団
Q	複合ｻｰﾋﾞｽ事業	晴れの国岡山農業協同組合、あいち海部農業協同組合、西日本信用漁業協同組合連合会	全国農業協同組合連合会鳥取県本部
R	サービス業（他に分類されないもの）	環境管理センター、クリタス（2）、パーソルクロステクノロジー、水ingAM、月島テクノメンテサービス、東洋ワークセキュリティ、加山興業、白川郷自然共生フォーラム、ABC Cooking Studio、クリンネス工房KRAFT	
S	公務	農林水産省（水産技術職）、兵庫労働局、石川県（林業）、滋賀県（環境行政）、島根県（行政）、山口県（水産）、山口県警、猪名川町（兵庫県）	鳥取県（行政、林業）

＜進学＞名古屋大学大学院、京都大学大学院、九州大学大学院、大阪教育大学連合教職大学院、愛媛大学大学院、公立鳥取環境大学大学院(3)、福岡工業大学大学院

【経営学部】

	業　種	鳥取県外企業	鳥取県内(関連)企業
○	農業、林業		
D	建設業	大本組、ナガワ、ネクストイノベーション、JAPAN HOME WAND	千代田工務店
E	製造業	エフピコ、エンプラス、三相電機、JMAX、シャトレーゼ、ホワイトフーズ、渡辺鉄工、ショーワグローブ、ナベプロセス、大塚包装工業、日立ハイテクサイエンス、アマダプレスシステム	寿製菓、マルサンアイ鳥取
F	電気・ガス・熱供給・水道業	大一ガス	
G	情報通信業	テクノスジャパン(2)、ニッセイコム、三井情報、倉敷ケーブルテレビ、エヌ・デーソフトウェア、コベルコソフトサービス、システムズナカシマ、ノバシステム、セリオ、セイノー情報サービス、日立ソリューションズ西日本、コンピュータサイエンス、島根情報処理センター、帝国データバンク、NCDソリューションズ、EMD	日本海テレビジョン放送、ケイズ
H	運輸業、郵便業	日本郵便	西日本旅客鉄道(米子市)
I	卸売業、小売業	Joshin、三愛オブリ、大黒天物産、田中商事、京都トヨペット、生活協同組合コープこうべ、日本アクセス、島根トヨタグループ、山陽自動車、エフティコミュニケーションズ、エヌエスピー、ヒラタ、デジアラホールディングス、昭和、ラルフローレン、福間商事、ACN、UACJトレーディング、サンキ、FUTAEDA、いーふらん、ゴールドトレーディング、大五、マルト	山陰酸素工業、鳥取マツダ、スズキ自販鳥取、モリックスジャパン、ゴダイ
J	金融業、保険業	みずほフィナンシャルグループ、みなと銀行、中国銀行、広島銀行、福井銀行、山口フィナンシャルグループ、共栄火災海上保険、近畿労働金庫、西兵庫信用金庫(2)、広島信用金庫	山陰合同銀行(鳥取市)、鳥取銀行(2)、鳥取信用金庫、鳥取県信用保証協会、エヌケーシー、大山日ノ丸証券、中国労働金庫(米子市)
K	不動産業、物品賃貸業	西尾レントオール、エラン、穴吹興産(2)、長谷エアーベスト、日商エステム、イデアハウス、ライフアシスト	トヨタレンタリース鳥取
L	学術研究、専門・技術サービス	ディップ、識学、長谷川会計事務所、ひたち野総合税理士法人	鵬技術コンサルタント、サンテラス税理士法人、中尾総合事務所
M	宿泊業、飲食サービス業		
N	生活関連サービス業、娯楽業	ハウステンボス	カーブスホールディングス(鳥取市)
O	教育、学習支援業		
P	医療、福祉		
Q	複合ｻｰﾋﾞｽ事業	全国農業協同組合連合会広島県本部	全国農業協同組合連合会鳥取県本部
R	サービス業(他に分類されないもの)	セコム、ワールドインテック、平山、アースサポート、エルフラット、ダイヤモンドヒューマンリソース	JPツーウェイコンタクト
S	公務	島根県(行政)、兵庫県(教育事務)、桑名市(三重)、福知山市(京都)、丸亀市(香川県)、防衛省航空自衛隊	鳥取県警、鳥取市、智頭町

＜進学＞横浜国立大学大学院、島根大学大学院

【大学院】

修了予定6名(進学1名、就職4名、その他1名)

	業　種	県外企業	県内(関連)企業
E	製造業	YKK	
G	情報通信業	Digital Phoenix	
R	サービス業(他に分類されないもの)	青年海外協力協会、スタッフサービスエンジニアリング	

令和5年度就職活動状況概要（2024年3月卒業生）

就職支援センター

（単位：人）

1．就職状況	令和5年度			令和4年度
	環境学部	経営学部	**全　体**	
卒業者	129	138	**267**	263
うち鳥取県内出身者	10	33	**43**	41
うち鳥取市内出身者	5	20	**25**	20
① 就職希望者	110	127	**237**	231
② うち鳥取県内出身者	9	32	**41**	36
③ うち鳥取市内出身者	5	20	**25**	20
④ 就職者	110	125	**235**	228
⑤ うち鳥取県内企業	16	29	**45**	49
⑥ うち鳥取県内出身者	7	21	**28**	25
⑦ ⑤のうち鳥取市内企業	13	21	**34**	28
⑧ ⑥のうち鳥取市内出身者	4	12	**16**	11
就職率	100.0%	98.4%	**99.2%**	98.7%
全国国公立大学平均（%）	令和6年　月　日時点　% ※ 4月1日時点の数値は5月中旬に発表			

	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
就職希望者のうち県内出身者　②/①	17.3%	15.6%	15.7%	14.9%
就職者に占める県内就職率　⑤/④	19.1%	21.5%	16.5%	14.3%
県内出身者の県内企業等就職率 ⑥/②	69.4%	69.4%	58.8%	54.1%
市内出身者の市内企業等就職率 ⑧/③	64.0%	55.0%	46.7%	60.0%

（県内就職の定義）

・鳥取県内に本社が所在する企業に就職する。

・鳥取県外に本社が所在するが、鳥取県内の事業所に配属される。

・鳥取県内に一定規模の事業所・工場等が存在し、ふるさと鳥取定住機構や県等が
主催する地元企業説明会に参加している本社を県外に置く企業への就職を一部含む。

2. 鳥取県内就職先

◇東部地区：35名

就職先企業・団体名	出　身　地
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	大分県別府市
株式会社エヌケーシー	鳥取市
株式会社カーブスホールディングス鳥取店	鳥取市
ゴダイ株式会社	鳥取市
株式会社山陰合同銀行	岡山県矢掛町
JPツーウェイコンタクト株式会社	大分県宇佐市
株式会社スズキ自販鳥取	鳥取市
全国農業協同組合連合会鳥取県本部	鳥取市
大山日ノ丸証券株式会社	岡山県岡山市
株式会社千代田工務店（2）	兵庫県姫路市、長崎県長崎市
株式会社鳥取銀行（3）	鳥取市（2）、米子市
鳥取県（行政職、林業職）	長野県松本市、大阪府河内長野市
鳥取県教育委員会　中学（3）	鳥取市、愛知県一宮市、福岡県北九州市
鳥取県警察本部	大阪府吹田市
鳥取市	鳥取市
株式会社鳥取県情報センター（2）	鳥取市、京都府与謝野町
鳥取信用金庫	智頭町
鳥取県信用保証協会	鳥取市
公益財団法人鳥取県保険事業団	鳥取市
株式会社鳥取マツダ	広島県三次市
株式会社トヨタレンタリース鳥取	岩美町
税理士法人中尾総合事務所	鳥取市
日本海テレビジョン放送株式会社	湯梨浜町
有限会社ひよこカンパニー	鳥取市
マルサンアイ鳥取株式会社	鳥取市
株式会社モリックスジャパン	鳥取市
ヤマタホールディングス株式会社	大分県別府市
智頭町	鳥取市

◇中部地区：4名

就職先企業・団体名	出　身　地
株式会社ウッズカンパニー	愛媛県愛南町
鵬技術コンサルタント株式会社	三朝町
サンテラス税理士法人	倉吉市
全国農業協同組合連合会鳥取県本部	八頭町

◇西部地区：6名

就職先企業・団体名	出　身　地
株式会社ケイズ	日南町
寿製菓株式会社	鳥取市
山陰酸素工業株式会社	京都府亀岡市
中国労働金庫	湯梨浜町
西日本旅客鉄道株式会社（技術職）	米子市
独立行政法人労働者健康安全機構（山陰労災病院配属）	伯耆町

令和5年度卒業生の出身地と就職先

県内就職率 ＝ 県内就職者数/就職者合計 県内定着率 ＝ 県内出身者の県内就職者数/県内出身者数 県内就職者の県内出身者率 ＝ 県内出身者のうち県内就職者数/県内就職者数

卒業生の出身地 / 卒業生の就職先	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	長野	山梨	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	外国等	合計	卒業生の出身地 / 卒業生の就職先
北海道	1																									1							1														3	北海道
青森																																																青森
岩手																																																岩手
宮城																																																宮城
秋田																																																秋田
山形																																																山形
福島							1																																									福島
茨城																				1																												茨城
栃木																																																栃木
群馬																																																群馬
埼玉											1																																					埼玉
千葉																																																千葉
東京													1					1			2	3	3				1	4		1	2		1			1				1		2			1			29	東京
神奈川								1															1							1										1							4	神奈川
新潟																																																新潟
富山																1																																富山
石川																	2																															石川
福井																		1																														福井
長野																							1																									長野
山梨																				1																												山梨
岐阜														1							4																												岐阜
静岡																						1			1									2														静岡
愛知						1													1				2			1		1			1					1												愛知
三重																												2																					三重
滋賀																								1																									滋賀
京都																									3		1																					京都
大阪																		1				1				1	5	9			4	1		2		3	1										大阪
兵庫																					1							14		1	2					1										1	20	兵庫
奈良																																																奈良
和歌山																																																和歌山
鳥取																			1				1			2	1	2	1		28		2	1			1		1		1		3					45	鳥取
島根																															4	3															7	島根
岡山																						1	1			1		1				1	7	1			2										15	岡山
広島																																1	1	4					1								7	広島
山口																								1									1		1												3	山口
徳島																																			3					1							4	徳島
香川																																	1	1		8	1										11	香川
愛媛																																					2										2	愛媛
高知																																																高知
福岡																					1							1						1						2		1				1	1		8	福岡
佐賀																																																	佐賀
長崎																																		1									2					3	長崎
熊本																													1														1					2	熊本
大分																																												2					2	大分
宮崎																																										1				1			2	宮崎
鹿児島																																														3			3	鹿児島
沖縄																																	1														1		2	沖縄
外国等																																																	外国等
就職者合計	1					1	1	1			1		1	1		1	2	3	2	2	8	6	9		3	8	8	35	2	3	41	7	18	13	1	7	12	5	1	6	1	7		7	2	4	3	1	235	就職者合計
大学院等進学者																								1			3											1									4	11	大学院等進学者
臨床研修医(鳥大)																																																	臨床研修医(鳥大)
未就職者等								1	2													2	1			1	2	3	1		2	1		1				1										1	21	未就職者等
卒業者合計	1					1	1	2	2		1		1	1		1	2	3	2	2	8	8	10	1	3	9	13	38	3	3	43	8	18	14	1	7	12	7	1	6	1	10		8	2	4	3	6	267	計

４　第３期中期計画概要

公立大学法人公立鳥取環境大学第３期中期計画については、令和６年２月８日に新生公立鳥取環境大学運営協議会の認可を受けました。

１　計画期間　令和６年４月１日～令和１２年３月３１日（６年間）

２　基本的な考え方

（１）時代の先を見通し未来を切り拓く次世代リーダーづくり

ＳＤＧｓや脱炭素に関する知識やスキルを社会やビジネスなどで実践できるグリーン人材、また、デジタル技術やデータに基づいた分析で社会やビジネスの課題解決に貢献できるデジタル人材の育成を通じて、未来を切り拓く人材を輩出する大学を目指す。

（２）成長実感を高める学生のための大学づくり

予測困難な時代に求められる変化対応力を身に付けさせる教育や支援に加えて、個々の学生の成長に寄り添う「学生目線」「学生本位」の教育や支援を実践し、教育活動を通じて学生が成長を実感できる魅力ある大学を目指す。

（３）多様な人々と協働し地域とともに汗をかく地域の未来づくり

大学の資源を活かして教育・研究・地域連携などの諸活動を地域で実践・深化、地域との良好な関係を持ちながら学内外の多様な人々と協働し、新たな価値の創出や優れた人材を輩出する、地域にとってかけがえのない大学を目指す。

３　目標達成のための計画（重点取組項目）

（１）教育方針・内容
- 成長実感を高める教育課程の検討
- 学修者本位の教育の実現
- 教育効果を高めるデジタル環境の整備

（２）就職支援
- 学生が望む進路の実現
- 県内就職率の向上

（３）学生支援
- 学生の成長に寄り添う学修等支援の充実
- 学生のニーズへの対応

（４）研究・産学官連携
- 研究支援体制の整備
- 産学官連携の推進

（５）社会・地域連携
- 地域連携の促進
- 学びの場の提供

（６）グローバルな視点を持った人材の育成
- 学生の英語能力育成
- 海外大学との学生交流・学術交流

（７）安定的な経営の確保
- 大学の魅力づくりと戦略的な情報発信
- 安定的な志願者確保
- 県内入学率の向上に向けた取組

（８）未来に向けた大学経営
- 法人の未来を見据えた経営戦略の検討と組織の活性化
- 事業・業務の改善・効率化
- 災害、情報セキュリティリスクに備えた教育の実施

（９）大学の脱炭素化
- 環境省脱炭素先行地域事業と連動した施設・設備の省エネルギー改修計画
- Race to Zero の目標として掲げる脱炭素化に向けた取組の促進

第3期中期計画における指標

項目		第3期中期目標	第3期中期計画						
			単位等	R06	R07	R08	R09	R10	R11
大学の教育等の質の向上に関する目標・計画									
教育	就職率	100%を目指し、就職状況調査（国公立大学）平均以上を達成する。	就職率（%）	（毎年度）国公立大学平均以上					
	県内就職率	設置者、産業界と協働して取り組み、中期目標期間内に、県内就職率30%以上を目指す。	県内就職率（%）	25	26	27	28	29	30
研究	競争的外部資金の申請	全教員が申請に関わり、同規模（教員数）公立大の平均新規申請数以上を達成する。	申請数（件）	（毎年度）近県公立大平均以上					
	競争的外部資金の採択率	近県公立大学平均以上の採択率（継続課題を含む。）を目指す。	新規採択率（%）	（毎年度）近県公立大平均以上					
	（新）多様性の尊重	中期目標期間内に女性教員比率23%を目指す。 〔全国国公立大学平均：23.4%（R4.5.1）〕	女性教員比率（%）	21	21	22	22	23	23
社会貢献 国際交流			シンポジウムや研究成果報告会を年間3回以上開催する。						
	海外大学との学生交流・学術交流	毎年度交流回数10回以上を目指す。	交流回数（回）	（毎年度）10回以上					
	学生の英語能力	CEFRにおけるB1レベル（英検2級など）以上の者を、年間100人以上達成する。 **※1** 第2期数値目標 CEFRにおけるB1レベル（英検2級など）以上の者を、年間30人以上達成する。	単位（人）	（毎年度）100人以上					
業務運営の改善及び効率化に関する目標・計画									
地域に開かれた大学づくり			ステークホルダーとの意見交換会等を年間3回以上開催する。						
安定的な経営確保・財務内容の改善に関する目標・計画									
安定的な経営確保	黒字化（当期総利益）	運営費交付金は地方交付税算入試算額以内とし、黒字を維持する。	実績（百万円）	（毎年度）損益均衡の財政運営					
	収入額（自己財源）	年間7億円以上を達成する。	実績（億円）	（毎年度）7億円以上					
	自己財源比率	中四国公立大学平均以上を目指す。	実績（%）	（毎年度）近県公立大平均以上					
	経常的支出に占める人件費の割合	中四国公立大学平均以内を目指す。	実績（%）	（毎年度）近県公立大平均以内					
学生確保・入学者受入	志願倍率	国公立大学平均値以上を目指す。	志願倍率	（毎年度）近県公立大平均以上					
	入学定員充足率	100%を維持する。	定員充足率（%）	（毎年度）100%を維持					
	県内入学率	県内入学率30%以上を目指す。 **※2** 第2期数値目標 県内入学率25%以上を目指す。	県内入学率（%）	25	26	27	28	29	30
その他業務運営に関する重要事項に関する目標・計画									
環境への配慮	**（新）**CO_2排出削減量	期間内に基準年比60%削減を目指す。 ※3 第2期数値目標 CO2排出量 年間1，000トン以下を目指す。	削減量（%）	33	36	39	42	50	60

※1、※2･･･第2期中期目標から数値目標を引き上げたもの。 ※3･･･第2期中期目標から数値目標の測定方法を変更したもの。

５　公立鳥取環境大学　脱炭素実行計画

１　経緯

● 2023 年 4 月 28 日、鳥取市、(株)とっとり市民電力、(株)山陰合同銀行、本学の 4 者の共同提案が、環境省の脱炭素先行地域に採択されました。本学は再エネ導入、ZEB 化等による省エネでキャンパスの脱炭素化を進めていきます。

● 本学は、2023 年 8 月 1 日、2050 年、2030 年の CO2 削減目標を定め、CO2 削減の国際キャンペーン Race to Zero へ参加しました。2030 年の CO2 削減目標に向けた具体的な行動計画として、「公立鳥取環境大学 脱炭素実行計画」を策定し、2024 年 3 月に公表しました。

＜参考＞Race to Zero が示す計画の要件

・目標設定後１年以内に移行計画を策定、公表すること

・１年後、２－３年後、2030 年までの行動を記載すること

２　ＣＯ２削減目標

● ２０３０年度

Scope1,2：2022 年度比 44%削減、2013 年度比 60%削減

Scope3　：2022 年度比 20％削減

● ２０５０年度

Scope1,2,3：実質ゼロ

＜参考＞CO 排出量の算定方法

Scope1：燃料の使用量に排出係数を乗じて算出

Scope2：電力の使用量に排出係数を乗じて算出

Scope3：以下の方法により推計

・一定の項目の決算金額に排出係数を乗じる

・出張日数、構成員数、出勤・通学日数に排出係数を乗じる　等

３　考え方

・教育と研究の質を維持する。快適性、使い勝手を低下させず、向上を目指す。

・排出量が大きい分野で、削減効果・実現可能性が高いものを優先して取り組む。

４　主な対策

・太陽光発電の導入【Scope1,2】

・断熱改修（屋上、外壁、窓ガラス）　照明改修（LED 化等)、空調改修　【Scope1,2】

５　進め方等

・サステイナビリティ研究所が中心となり、学内（教職員、学生)、学外の意見を聴取して進める。

・毎年の排出実績、取組の進捗状況を踏まえ、環境マネジメントシステム（ISO14001）を活用し、実行計画を毎年見直し、公表する。

６　今後の検討課題

● Scope1,2

・再エネの追加導入、再エネ電力の調達

● Scope3

・CO2 排出量算定方法の検討（精度を高め、実態に近づける）

（例　調達先と連携し量/活動当たりの排出係数を入手するなど）

・調達先、委託先など学外の関係者と連携した削減対策

（例　グリーン購入、環境に配慮した建築工事、脱炭素交通など）

省エネ活動の内容

- 空調の適正運転（温度設定、不在時のスイッチオフなど）
- 照明の適正利用（不在時、休憩時のスイッチオフ、部分点灯など）
- OA 機器の適正利用（省エネモード利用、電源オフなど）
- 講義室、執務室など部屋の効率的な利用（適正規模、集約化、利用時間など）
- エレベーター利用の見直し（間引き運転、最寄り階への階段利用など）
- 紙削減（資料数の見直し、印刷物電子化、両面・集約・裏紙印刷など）

（参考）サプライチェーン排出量とは

環境省資料抜粋

■ 事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量を指す。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと

■ サプライチェーン排出量＝Scope1排出量＋Scope2排出量＋Scope3排出量

- Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
- Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
- Scope3：Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

■ GHGプロトコルのScope3基準では、Scope3を15のカテゴリに分類

○の数字はScope 3 のカテゴリ

公立鳥取環境大学　脱炭素実行計画

Scope	分類、内容	備考	**2022 実績**	主なもの	**2030目標** [2022との差]	2024	2025～2026	～2030
1	燃料の燃焼	冷暖房:LPG,灯油 車:ガソリン、軽油	295 t	LPG　290 t	**620 t** [▲487 t]	断熱改修設計 (屋上、外壁、窓ガラス)	断熱改修工事 空調改修設計・工事	
2	他者が供給する電気の使用	中国電力NWから購入 ※排出係数 0.435kg/kWh	812 t			照明改修工事（LED化等） 省エネ活動 太陽光発電設計	太陽光発電工事 再エネ追加導入、再エネ電力調達検討	約280kW
		合計	**1,107 t**					
14 3	カテゴリ1 購入した製品・サービス	事務用品、印刷物、複写機賃借料など	633 t	用品等　211 t 書籍、印刷物　61 t コピー用紙　23 t PC　29 t	**1,405 t** [▲351 t]	CO2排出量算定方法の検討 （実態に近づける）	削減策を検討し、可能なものから実施 （例　グリーン購入、ペーパーレス化など）	
	カテゴリ2 資本財	試験研究機器等の固定資産	600 t	建物附属設備　393 t 工具、器具等　132 t			削減策を検討し、可能なものから実施 （例　環境配慮工事発注など）	
	カテゴリ3 燃料、エネルギー活動（Scope1,2除く）	調達燃料、電力の上流工程（採掘など）	180 t	電力　127 t LPG　52 t		※Scope１,２の削減に連動して減少		
	カテゴリ5 事業から出る廃棄物	廃油、廃プラ、紙ゴミなど	5 t	廃油　3 t 廃プラ　1 t		ウォーターサーバ設置検討	条件が整えば試行	
	カテゴリ6 出張	教職員、学生の出張	60 t	教職員 49 t 学生 19 t		CO2排出量算定方法の検討 （実態に近づける）	削減策を検討し、可能なものから実施 （例　出張の交通手段指定など）	
	カテゴリ7 雇用者の通勤	教職員の通勤、学生の通学	278 t	学生 230 t 教職員 48 t			削減策を検討し、可能なものから実施 （例　ノーマイカーデー、EV利用など）	
		合計	**1,756 t**					
その他						脱炭素研究の実施 （AI利用エネルギーマネジメント、リサイクルなど） 脱炭素教育の充実検討 エネルギー使用量、CO2排出量の見える化 啓発イベントの実施（TUES Sustainability Week等）	新たな脱炭素教育の実施	

６　環大生×企業による SDGs 共創プロジェクト

本学と鳥取商工会議所工業部会で取り組んできた SDGs 連携事業（※）に令和６年度から鳥取県が参加・連携し、「環大生×企業による SDGs 共創プロジェクト」として再始動することとなりました。

（※）SDGs の取組推進を目的に工業部会と本学の教員及び学生が連携し、（主にゼミの研究活動として）企業の環境分野等における課題を解決する事業。課題解決を通じて、本学では SDGs の目標達成並びに学生の成長を目指しており、本学の SDGs 推進組織であるサステイナビリティ研究所が主導して進めてきた。

１　経緯

SDGs 連携事業は、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向け、本学に集積する知識や情報、ノウハウを活かそうと、令和３年度から本学と鳥取商工会議所工業部会で実施してきた。

当初、事業期間を３年間と取り決めていたため、令和５年度が最終年度となる予定であったが、学生の成長効果が高いため、継続できないかと工業部会と協議していたところ、鳥取県から「とっとり SDGs 企業認証制度」「Z 世代との交流を通じた SDGs 経営計画魅力化事業」など企業の SDGs 経営を推進するための県の事業とこの SDGs 連携事業の目的が合致するので、参加・連携したいとの声があり、３者で協議を行った結果、連携して事業を再始動することが決まった。

２　スケジュール

時期	内容
令和６年１月	取組テーマを募集 県→SDG s 経営に取り組む企業 鳥取商工会議所工業部会→会員企業
令和６年２月中旬～３月中旬	本学で実施可能なテーマの絞り込み・決定
令和６年５月８日	キックオフイベント開催
令和７年２月頃	学生による成果報告会

３　令和６年度の取組テーマ

【脱炭素化】

・美保テクノス株式会社
　テーマ『建設業における CO2 排出量算出モデルの構築』
・大同端子製造株式会社
　テーマ『AI を活用した工場内の電力消費量の可視化』

【環境負荷低減】

・（一社）日本ドローン海洋漂着ごみ回収事業推進協会【（株）skyer、北溟産業（有）】
　テーマ『衛星データとドローンによる海岸漂着ごみ対策』
・株式会社アサヒメッキ
　テーマ『メッキ排水の再生利用技術』

【資源循環】

・株式会社エコ・ファーム鳥取
　テーマ『100％天然由来刈草堆肥のブランド化・販路開拓』
・菌興椎茸協同組合
　テーマ『生分解性素材による椎茸種菌の保護蓋の開発』

【その他の近況】

Ⅰ　研究関係

研究・交流

1．　公開講座等

（1）地域・教養に関連した一般向け講座

開催日/会場		タイトル	講　師
6/1(土)	西部	介護サービス労働力不足と外国人労働者の受入	経営学部 准教授 佐藤 彩子
6月中旬	動画配信		
8/31(土)	東部	鳥取の植物 ～植物の生き方について考える～	環境学部 教授 笠木 哲也
9月中旬	動画配信		
9/21(土)	中部	変動帯としての日本で生きるとは？	環境学部 准教授 柚洞 一央
10月上旬	動画配信		
10/5(土)	西部	SDGsとは何であり、何ではないのか ～SDGsが取り残したものたちから～	経営学部 准教授 高井 亨
10月中旬	動画配信		
11/30(土)	西部	食品ロスについて考える ～いのちとの向き合い方～	環境学部 准教授 門木 秀幸
12月中旬	動画配信		
12/21(土)	東部	会計の歴史のはなし ～最古の会計記録および明治期の日本と中世ヨーロッパの会計を中心として～	経営学部 准教授 川﨑 紘宗
1月中旬	動画配信		

（2）リカレント教育関連講座

開催日/会場		タイトル	講　師
6/13(木)	東部	臨床心理学入門	環境学部 教授 藤田 恵津子
10/24(木)	Webex (ｵﾝﾗｲﾝ)	市民マーケティングのすすめ	経営学部 教授 磯野 誠

＜企業・組織のデータをどう生かすか？＞

AI・数理・データサイエンス教育研究センターが、コース形式で実施。

開催日/会場		タイトル	講　師
6/26(水)	本学	AI・データ分析を活用した業務改革プロジェクトの進め方	経営学部 教授/AI・数理･ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ教育研究ｾﾝﾀｰ長 齊藤 哲
7月中旬	動画配信		
7/10(水)	本学	ビジネススキルとしてのAI利活用入門	人間形成教育ｾﾝﾀｰ 准教授 堀 磨伊也
8月上旬	動画配信		
7/24(水)	本学	データリテラシー　～洞察力の養成～	人間形成教育ｾﾝﾀｰ 准教授 久保 奨
8月中旬	動画配信		

（３）英語能力初中級者向け講座

開催日/会場		タイトル	講　師
11/2(土)	東部	Intercultural Communication ～Understanding and Connecting with Others～ 異文化コミュニケーション ～相互理解で広がる輪～	人間形成教育ｾﾝﾀｰ 講師 モウア ジェニファー
11月中旬	動画配信		

（４）小学生対象講座

開催日/会場		タイトル	講　師
7/20(土)	むらなか	雨の降る仕組みを知って雨量計を作ろう	環境学部 准教授 重田 祥範

（５）ＫＡＮラジ

令和６年度は２回放送予定。

２．各種研究助成等

○科学研究費助成事業（17件　　23,010千円 ※間接経費含む）

研究種目	研究課題	研究代表者	R6年度助成額（千円）
基盤研究（B）	【継続】南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変動の復元	環境学部 徳田 悠希	6,760
	【新規】メタン発酵嫌気性微生物へのマイクロ波非熱的作用の機構解明と循環照射システム	環境学部 戸苅　丈仁	4,550
基盤研究（C）	【新規】バリ島の外庭テラジャカンの保全と活用：持続可能な観光産業の発展に向けた総合的分析	環境学部 加藤　禎久	1,300
	【新規】少子高齢化時代の農業ファミリービジネスと女性経営参画－長期公的パネルデータ分析－	経営学部 西村　教子	1,170
	【継続】有機農業における生産知識のナレッジマネジメント構造の解明に関する研究	環境学部 山口 創	780
	【継続】地域人材育成に資する連携型中高一貫校の「探究的な学び」に関する研究	環境学部 川口 有美子	1,170
	【継続】ゴム分解キノコの物性低下因子の特定とそれを用いたゴムの再資源化	環境学部 佐藤 伸	1,300
	【継続】アイデア開発者が自らの創造性発揮を動機づける過程と要件	経営学部 磯野 誠	910
	【継続】植民地期インドの貨幣鋳造所の実態：貨幣統合政策の実効性の検証	経営学部 谷口 謙次	520
	【継続】河川堆積物及び懸濁物のアノマリーデータから予想される流域内土砂流出量の期待値分布	環境学部 角野 貴信	1,040

基盤研究（C）	【継続】揺らぐ自由貿易下における多国籍企業の直接投資とグローバル・サプライチェーンの構築	経営学部 連 宜萍	650
	【継続】性格・情意要因がスピーキング力に与える影響とプロソディ指導の効果について	人間形成教育センター 中村 弘子	390
	【期間延長】ボンとは何か―主にブータン仏教からみたボン教的聖域の構造と表象	環境学部 浅川 滋男	0
	【期間延長】バリ島の都市化・観光化に反して残存する身近な伝統緑地テラジャカンの領域融合的研究	環境学部 加藤　禎久	0
	【継続】予測モデルの局所的解釈に基づくオンデマンドバスの運行最適化	人間形成教育センター 堀 磨伊也	1,300
若手研究	【継続】ソーシャル・イノベーション普及の要因分析ー消費者コミュニケーションの現場からー	経営学部 竹内 由佳	1,170
	【期間延長】労働力不足解消に向けた外国人介護職員の就業：「地域的文脈」が定着に与える影響	経営学部 佐藤 彩子	0

3．受託研究（2 件　12,519 千円）

研究課題	委託者	教員名	金額（千円）
天然ゴムを用いるグローバル炭素循環プロセスの科学技術イノベーション（研究題目３：天然ゴムの生分解）	国立研究開発法人科学技術振興機（JST-SATREPS）	環境学部 准教授 佐藤 伸	6,162
美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST-共創の場形成支援プログラム）	環境学部 准教授 甲田 紫乃	7,657

4．共同研究（12 件　14,031 千円）

研究課題	共同研究者	教員名	金額（千円）
猫腎臓病の早期診断法の開発と、療法食の開発	ﾘﾊﾞｰﾄﾞｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ(株)、鳥取大学	環境学部 准教授 山本 敦史	3,960
制震ダンパー単体の静的繰り返し載荷実験による履歴特性の評価	住友ゴム工業(株)	環境学部 教授 中治 弘行	2,199
質量分析オープンイノベーション協働ユニット	大阪大学大学院理学研究科付属基盤理学プロジェクトセンター	環境学部 准教授 山本 敦史	0
エリンギの機能性成分分析	(有)北村きのこ園	環境学部 准教授 山本 敦史	165

えごまとその関連商品の機能性成分分析	(有)若桜農林振興	環境学部 准教授 山本 敦史	50
鳥取県産品を用いた若者世代向け商品共同開発に向けての定性調査	(株)サンマート	経営学部 准教授 竹内 由佳	330
生ゴミとセルロース系バイオマスの混合メタン発酵に関する研究	三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)	環境学部 准教授 戸苅 丈仁	5,192
ゴム分解キノコによる加硫ゴム分解・脱硫作用の解析	住友理工(株)	環境学部 准教授 佐藤 伸	1,000
鳥取砂丘未来会議調査研究会における基礎的調査研究及び特別調査テーマに関する研究	鳥取砂丘未来会議	環境学部 准教授 重田 祥範	585
製品検査内製化のための分析法開発	林純薬工業(株)	環境学部 准教授 山本 敦史	550
衛星画像を用いた浅海域の海底地形推定技術の高度化に関する共同研究	海上保安庁海洋情報部	環境学部 准教授佐川 龍之	0
天然ゴムを用いるグローバル炭素循環プロセスの科学技術イノベーション	長岡技術科学大学	環境学部 准教授 佐藤 伸	0

５．地域連携・産学官連携

（１）地域連携活動推進助成制度

・地域イベント等への参加、地域住民との交流等の活動を行う学生団体等への経済的支援により、地域連携活動を推進。学内で公募。
・主として本学教員・学生等（３名以上）による地域連携活動で、活動エリアが鳥取市、若桜町、八頭町、智頭町、岩美町、新温泉町、香美町のいずれかであるもの。
・助成額は、原則として１団体上限５万円（１２月まで随時募集する予定)。
・令和６年度は、２件の活動を採択。支援を行いながら活動を行ってもらう。

○令和６年度採択活動（令和６年５月現在）

No.	活動名称	活動団体
①	ワカメフェス 2024 Road to PariPari ～ワカメの凱旋門へようこそ～	TUES 地球環境を考える会
②	鳥取古着フリマフェス	鳥取古着フリマフェス

（２）山陰海岸ジオパークサイエンスカフェ

・内　　容：ジオパークの周知や関連知識の啓発等を目的とした鳥取県からの受託事業。
　　関連する本学教員を中心にサイエンスカフェを４回開催予定。
・開催期間：令和６年７月～１１月
・関連教員：ファシリテーター 環境学部 千代西尾 祐司 教授

サステイナビリティ研究所

１．SDGs カフェ

気軽に語り合えるカフェ形式で、設定したテーマについて参加者が自由に意見交換する場。学生主体で企画・運営・実施。令和５年度は、以下２回（テーマ）を実施した。

（１）テーマ：最新昆虫食と SDGs

（２）テーマ：条件付特定外来生物について学ぼう！！

２．SDGs 共創プロジェクト（SDGs 連携事業）

本学、鳥取商工会議所（工業部会）、鳥取県の三者が連携し、学生が教員の指導のもと、SDGs 経営を行う県内企業の環境課題の解決に取り組む「共創プロジェクト」。令和６年度は、以下６社の課題解決に取り組む。

≪取組企業≫

・美保テクノス（株）
・大同端子製造（株）
・（一社）日本ドローン海岸漂着ごみ回収事業推進協会（（株）skyer、北溟産業（有））
・（株）アサヒメッキ
・（株）エコ・ファーム鳥取
・菌興椎茸協同組合

≪キックオフイベント≫

これまで、本学と鳥取商工会議所（工業部会）とが連携し、県内東部地域の製造業の環境分野の課題解決に向けて、企業と学生及び教員が調査研究活動を行ってきた。

また、鳥取県においても、企業の SDGs 経営を推進するため「とっとり SDGs 企業認証制度」の創設や資源循環モデルづくりなどに取り組んできた。これらの取り組みを発展させ、令和６年度からは、本学、鳥取商工会議所（工業部会）、鳥取県の三者が連携し、SDGs 経営を行う全県下・全業種の企業に拡大し、学生が教員の指導のもと、企業の環境課題の解決を進める。この共創事業のスタートにあたりキックオフイベントを開催した。

①日　　時：令和６年５月８日（水）１５時３０分～１７時００分

②会　　場：とりぎん文化会館 第２会議室

③プログラム：

<table>
<tr><td colspan="2">挨拶</td><td>公立鳥取環境大学
小林 朋道 学長</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>鳥取商工会議所工業部会
木下　貴啓　部会長</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>鳥取県商工労働部
池田 一彦 部長</td></tr>
<tr><td rowspan="6">課題及び取り組み方向説明</td><td rowspan="2">建設業における CO2 排出量算出ﾓﾃﾞﾙの構築</td><td>美保ﾃｸﾉｽ(株)</td></tr>
<tr><td>環境学部 門木 秀幸 准教授
ｾﾞﾐ生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">AI を活用した工場内の電力消費量の可視化</td><td>大同端子製造(株)</td></tr>
<tr><td>人間形成教育ｾﾝﾀｰ
堀 磨伊也 准教授､ｾﾞﾐ生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">衛星ﾃﾞｰﾀとﾄﾞﾛｰﾝによる海岸漂着ごみ対策</td><td>(一社)日本ﾄﾞﾛｰﾝ海岸漂着ごみ回収事業推進協会</td></tr>
<tr><td>環境学部 佐川 龍之 准教授
ｾﾞﾐ生</td></tr>
</table>

	ﾒｯｷ排水の再生利用技術	(株)ｱｻﾋﾒｯｷ
		環境学部 門木 秀幸　准教授 ｾﾞﾐ生
	100%天然由来 刈草堆肥のﾌﾞﾗﾝﾄﾞ化･販路開拓	(株)ｴｺ･ﾌｧｰﾑ鳥取
		経営学部 山口 和宏 准教授 学生 EMS 委員会
	生分解性素材による椎茸種菌の保護蓋の開発	菌興椎茸協同組合
		環境学部 金 相烈 教授､ｾﾞﾐ生 環境学部 門木 秀幸　准教授 ｾﾞﾐ生
質疑		

３．SDGs オンライン講座

本学の教育研究活動から生まれる SDGs に関係した教育コンテンツ（動画）を制作・提供する。この講座により、本学の学生のみならず、高等学校以前の生徒や地域住民（一般）等の個人レベルの SDGs に関する意識改革につながることを目指す。令和５年度は、２本の動画を制作した。

○令和５年度制作動画

＜サステイナビリティ研究所研究成果報告会の報告（一般向け）＞

No.	ﾀｲﾄﾙ	担当教員	
		学部	氏名等 （役職は制作当時のもの）
(1)	鳥取県若桜町と八頭町の農山地の持続的管理・利用のための超学際的研究	環境学部	加藤 禎久　准教授
(2)	Sentinel-2 衛星データと機械学習を用いた浅海域水深情報の抽出	環境学部	佐川 龍之　准教授

４．SDGs 活動推進助成制度

・実践的な SDGs 活動を行う学生の自律性を高めることを目的とする。SDGs 活動を通して持続可能な社会の実現を目指す意欲のある学生、大学院生（個人あるいは団体）を経済的に支援する。
・学内で公募。
・主に鳥取県内で行う活動で SDGs 達成に具体的に取り組む活動（但し、審査員が認める場合に限り県外のエリアでの活動も可）。
・助成額　個人：上限３万円、団体：上限５万円。
・令和５年度は、２件の活動を採択し活動を行った。

○令和５年度採択活動

No.	活動名称	活動団体等
(1)	“痛み”だけじゃない！？生理を取り巻くあらゆる課題～生理のメカニズム／生理公欠／生理の貧困	nm（ナノメートル）
(2)	作って学ぶ清掃活動	続・清掃し隊んじゃー

５．サステイナビリティ研究所研究成果報告会、シンポジウム
研究成果報告会は、SDGs の目標達成に向けて、令和５年度に、サステイナビリティ研究所の研究員が取り組んだ研究の成果をご報告します。シンポジウムは、環境省の脱炭素先行地域選定自治体関係者等を招聘し行います。
（１）日　　時：１０～１１月頃予定
（２）開 催 形 式：未定
（３）会　　場：未定
（４）プログラム：令和５年度の研究成果報告会とシンポジウムの２部構成。

６．TUES Sustainability Week
脱炭素を起点に地域・大学の持続可能性・環境について考え、学生が主体となり実施するイベントを行います。本学教職員、行政等の方々によるトーク、パネル展示を行う予定です。
（１）日　　時：７月１日から７月５日予定
（２）会　　場：学生センター、情報メディアセンター等
（３）プログラム：Sustainability Talks、パネル展示等

地域イノベーション研究センター

１．地域連携型教育（副専攻「地域実践」）特別演習 A・B・C

科目	代表教員	訪問先企業・団体	内容
特別演習 A	倉持　裕彌　准教授	岩美町、智頭町関係団体、中央大学　等	中央大学連携共同フィールドワーク
	吉田　　聡　教授	SC 鳥取	ガイナーレとの体験学習
特別演習 B	倉持　裕彌　准教授	鳥取市内 NPO 団体各所	NPO・ボランティア体験
		埼玉県（富士電機）ほか	工場立地と地域社会
	山口　和宏　准教授	北海道地域農業研究所ほか	農業経営・都市農村交流
		米子青果ほか	地域企業と DX（仮）
特別演習 C	張　　漢賢　教授	鳥取市内バス会社	バス停留所悉皆調査
	吉永　郁夫　教授	林業試験場	山地災害リスクと森林管理
	太田　太郎　准教授	境港総合高校	実習船による海洋観測
	根本　昌彦　教授	日南町木材工場、日南町林業アカデミー	林業と木材利用
	甲田　紫乃　准教授	調整中	調整中

２．とっとり麒麟地域活性化プラットフォーム地域連携推進会議
とっとり麒麟地域活性化プラットフォームの構成員と本学が地域の抱える課題を認識し、その解決に向けて意見交換を行う。
（１）日　　時：未定
（２）会　　場：未定
（３）プログラム：未定

３．ＴＵＥＳ麒麟マイスター

・地域志向カリキュラム及びキャリア志向カリキュラムを修了し、麒麟地域（鳥取県鳥取市、岩美町、八頭町、若桜町、智頭町及び兵庫県新温泉町、香美町）に関する知見を総合的に理解し、同地域の活性化に係る活動や研究に意欲的に取り組む学生に対して、公立鳥取環境大学麒麟マイスター（ＴＵＥＳ麒麟マイスター）を認定し、地域を担う人材の育成を目的とする。
・令和５年度は、４名の学生を認定した。

４．麒麟特別研究費助成

・ＴＵＥＳ麒麟マイスターを保有する学生の学術的かつ地域のニーズに応じた卒論研究を支援し、学生による地域研究の活性化を図ることを目的とする。
・令和５年度は、１名の研究を助成した。

○令和５年度助成研究

No.	研究課題名
①	上方往来における「御茶屋」の再興－葵御紋の南蔵再生より－

まちなかキャンパス

１．まちなかキャンパス概要

（１）場　　所：鳥取市末広温泉町 160 日交本通りビル３階 301 号室
（２）開館時間：午後１時～５時（土日祝、年末年始、夏期一斉休業日除く）
（３）利用目的：教育・研究・社会貢献活動のほか、会議、打合せ等、多目的に利用可。

２．令和５年度の利用実績

（１）利用者区分別内訳

区分	人数(人)
本学在学生	484
本学卒業生	37
本学教員	67
本学職員	49
他大学学生	3
他大学教職員	7
行政関係者	41
幼・小・中・高生	265
一般	28
マスコミ関係	1
組合・協議会等	7
企業	14
他学校教職員	0
計	1,003

（２）利用目的別内訳

目的	人数(人)
授業	44
会議・打合せ	120
学生活動	1
自習	42
研究	1
まちなか英語村	47
環大スタディ	432
里山生物園	190
見学	15
取材	1
イベント等	77
その他待合せ等	33
計	1,003

３．　環大スタディ（カンスタ）

（１）日時：令和６年４月１７日（水）から毎週水曜日１８時３０分～２０時００分
（２）会場：まちなかキャンパス
（３）対象：鳥取市近郊の中学生・高校生等
（４）概要：教職課程を履修している本学学生が近隣の子どもに学習支援を行うという形で地域に貢献し、また自らの教育実践力を高めるために取り組む活動。

岩美むらなかキャンパス

１．岩美むらなかキャンパス概要

（１）場　　所：岩美郡岩美町大谷

（２）利用目的：自然環境保全実習・地域文化調査、岩美町の町並み調査、地域活動拠点（ボランティア等）、地元小中高校生・地域住民との研究会・交流会　等々

（３）収容人数：セミナー等（最大３０人程度）、宿泊（最大２０人程度）

（４）施設概要：研究室、教材のメンテナンス及び保管室、トイレ・シャワー、食堂などの生活設備、作業場及び駐車場　等

（５）面　　積：本邸部分 235.13 ㎡（１階 164.98＋２階 70.15）
食堂等部分（新築）52.07 ㎡
蔵 46.24 ㎡（１階 23.12＋2 階 23.12）
作業場（倉庫）85.25 ㎡
駐車場　１７台収容

２．令和５年度の利用実績

（１）利用者区分別内訳

区分	人数(人)
教職員	98
学生	217
学外者	162
計	477

（２）利用目的別内訳

目的	回数(回)	人数(人)	うち宿泊(回)
公開講座・講演会	3	124	0
授業・ゼミ活動	31	232	6
地域住民利用	0	0	0
その他	44	121	2
計	78	477	8

国際交流センター

１．令和６年度の国際交流実施計画・実績

【海外大学との学生交流・文化交流】

区分	国	交流大学	交流内容	時期	実績
派遣	韓国	清州大学	交換留学	前期	希望者なし
				後期	－
			短期学生文化交流	先方都合により今年度は中止	－
	ロシア	ｳﾗｼﾞｵｽﾄｸ国立経済ｻｰﾋﾞｽ大学	短期研修	今年度の実施なし	－
	アメリカ	ｾﾝﾄﾗﾙｸﾘｽﾁｬﾝｶﾚｯｼﾞ・ｶﾝｻﾞｽ	短期研修	8～9 月	－
受入	韓国	清州大学	交換留学	前期	1 名
				後期	－
			短期学生文化交流	先方都合により今年度は中止	－
	アメリカ	ミドルベリー大学	文化交流	先方都合により中止	－
		ｾﾝﾄﾗﾙｸﾘｽﾁｬﾝｶﾚｯｼﾞ・ｶﾝｻﾞｽ	短期研修	5～6 月	－

【海外語学研修】

区分	国	留学先	内容	時期	実績
派遣	ドイツ	カッセル大学	語学研修（英語）	8～9 月	－
	アメリカ	ﾜｰﾅｰﾊﾟｼﾌｨｯｸ大学		8～9 月	－
	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	サザンクロス大学		2～3 月	－
	カナダ	ﾄﾘﾆﾃｨ・ｳｴｽﾀﾝ大学		2～3 月	－
	マレーシア	ｱｼﾞｱﾊﾟｼﾌｨｯｸ大学		2～3 月	－
	韓国	延世大学韓国語学堂	語学研修（韓国語）	8 月	－
	中国	吉林大学	語学研修（中国語）	8 月	－

【オンライン de 国際交流】

区分	国	交流先	内容	時期	実績
交流	ドイツ	国際交流員	国際交流（英語・日本語）	後期	－

【その他の交流（他機関主催）】

区分	国	交流相手・事業名等	交流内容	時期	実績
派遣	中国	中国吉林省県費留学生事業（県）	留学生の相互受入	3 月	－
受入	中国	中国吉林省県費留学生事業（県）	留学生の相互受入	通年	1 名
	ロシア	ｳﾗｼﾞｵｽﾄｸ国立経済ｻｰﾋﾞｽ大学（観光専攻）	学生交流	今年度の実施予定なし	－

【その他の交流（多文化共生推進）】

区分	交流相手・事業名等	交流内容	時期	実績
交流	湯梨浜町・グラウンド・ゴルフ国際交流大会	スポーツ交流（地域住民・学生）	11 月	－
	鳥取市ペタンク協会・鳥取市ポワ・ティペタンク交流大会	スポーツ交流（地域住民・学生）	6 月 or 11 月	－
	異文化学習交流会	多文化共生理解につながる活動、交流	年 2 回程度	－

２．出張英語村・まちなか英語村

（１）出張英語村

今年度は対象を高校生とし、対面で実施する（希望校にはオンラインで実施)。鳥取県全地域の高等学校に出張英語村の案内をし、希望があった高校（最大１０校）に対して実施する（令和５年度の申込は５校)。

（２）まちなか英語村

今年度は中学生から高校生を対象とし、まちなかキャンパスにおいて対面で実施する。

３．外国人留学生へのサポート

（１）留学生サポーター登録制度

日本人学生と留学生がパートナーとなり、語学の相互学習、趣味や興味の共有、文化交流を通じて、留学生の日本語学習や学校生活をサポートする。

・留学生サポーター登録者４８名（４月２４日時点）

Ⅱ　広報関係（R6.4末現在）

大学広報関係

１　マスコミへの資料提供

情報提供件数　　１件

２　ホームページでの情報発信

お知らせ　　５件

ＴＵＥＳレポート　　６件

３　ＳＮＳを活用した情報発信

Ｘ　　２５回　（４月：２５回）

ＬＩＮＥ　　２回　（４月：２回）

入試広報関係

１　進学相談会

４月：　　参加　５件（現地４件、オンライン１件）、資料参加　９件

２　高校内ガイダンス

４月：　　７件（現地３件、オンライン４件）

３　学長による高校訪問（校長への訪問）

※県内３２校へ５月６月に訪問予定

４　出前授業（県教委との高大連携事業含む）

４月　　２件（八頭）

Ⅲ　学務関係

１　入学式

（１）実施日　４月４日（木）午前１０時～
（２）場所　　とりぎん文化会館梨花ホール
（３）入学者　計３３１名（環境学部１５９名、経営学部１６９名、大学院３名）

２　フレッシャーズセミナー（新入生を対象)、ガイダンス

（１）実施日　４月３日（水）～６日（土）
（２）主な実施内容
・１年生　　履修指導
・１，４年生　　健康診断
・全学年　　学部ガイダンス、進路・資格ガイダンス、環境管理活動・地域連携活動

３　授業

・４月８日（月）　　授業開始

４　副専攻の履修登録状況

主専攻に加え興味や関心のある分野を体系的に学修するため、２０２１年度以降の入学生を対象に副専攻制度を設けた。２年次以降、半期ごとに登録手続きが可能で、卒業時に修了要件を満たせば修了証明書を発行する。

副専攻名	目的、概要	登録人数（人）		
		Ｒ６	Ｒ５	Ｒ４
環境学	環境的な見方ができる人材を育成（経営学部生対象）	２	１６	１０
経営学	経営的な見方ができる人材を育成（環境学部生対象）	１０	２５	１６
AI・数理・データサイエンス	AI を利用しビッグデータを効果的に活用できる人材を育成	５	９	５
英語実践	実践的な英語力を身に着けた人材を育成	５	１１	３
地域実践（麒麟）	地域課題の解決策を提案できる人材を育成	２１	２２	１２

５　学修サポート体制の充実

今年度はサポーター１５名に委嘱し、学修支援、学生生活へのアドバイスを実施。
本体制を活用し新１年生との面談をチューター単位で実施（4 月 17 日～）

６　就職関連

（１）就職ガイダンス

実施	タイトル	学年	対象	内　　容	実施	R6	R5	R4
4/3	進路ガイダンス	3・院1	全員	就活スケジュールを確認する、就職サイト登録会	対面	80	81	169
4/3	進路ガイダンス	4	全員	選考のポイントと採用スケジュールを確認する	対面	15	15	16
4/5・6	進路ガイダンス	1 2	全員	大学生活と就職活動を知る、自己理解を促進する	対面	273 86	315 116	314 119
4/10	自己分析と自己PR	3・院1	全員	自己分析のワーク（他者からの評価を受け入れ、客観的な視点で自己を捉える、他者の自己 PRを聞いてみる）	対面	53	104	159
4/17	職務適性テスト	3・院1	全員	自己分析のための職務適性テスト	対面	59	120	154
4/24	公務員業務説明会	全学年	希望者	県、市、県警の採用担当者が業務説明、質疑応答	対面	74	106	－
5/1	業界研究	3・院1	希望者	本学にお勧めの業界研究	対面	18	－	－
5/8	職務適性テスト結果返	3・院1	希望者	職務適性テスト結果の返却と解説	対面	40	－	－
5/15	インターンシップ基礎	3・院1	全員	ISの基礎知識、実際に1社以上エントリーしてみる	対面		169	－
5/22	インターンシップ応用	3・院1	全員	ワークを通じて実践的にインターンシップを体験してみる	対面		110	―
5/29	企業研究	3・院1	全員	企業比較をする、企業選びの軸を言語化する	対面		61	156
6/5	夏の合説活用講座	3・院1	全員	夏の合同企業説明会の参加方法や活用方法を知る	対面		59	―
6/12	SPI模擬受検会	3・院1	全員	客観的に自己を知るSPI性格検査 エントリーシート作成前に強み弱みを言語化する	Web		83	78
6/19	志望動機	3・院1	全員	実際の企業の志望動機を書いてみる	対面		64	―
7/3	面接対策（グループディスカッション対策）	3・院1	全員	面接官の視点を確認する、グループディスカッション演習	対面		22	17
7/17	身だしなみマナー講座	3・院1	希望者	メールや電話、身だしなみ等基本的なマナーの確認	対面		―	121
9/下旬	進路ガイダンス	3・院1	全員	選考のポイント、採用スケジュール	対面		37	62
9/下旬	進路ガイダンス	2	全員	インターンシップ準備	対面		65	70
9/下旬	進路ガイダンス	1	全員	大学生活の過ごし方、キャリタスUC登録会	対面		195	243
10/9	自己PR brush up	3・院1	希望者	企業が見ている観点	対面		19	29
10/16	適性診断テスト	1	全員	職種への適性を知る	対面		173	188
11/6	SPI模擬受検会	3・院1	全員	企業での活用方法、選考での位置づけ	対面		29	27
12/4	適性検査受検会	2	全員	学生生活の行動計画	対面		37	143
12/11	OPEN ES入力講座	3・院1	希望者	エントリーシートを仕上げてOPEN ESに登録しよう	対面		9	―
1/15	就活スタートアップ	2	全員	就活スケジュールを確認、インターンシップを知る	対面		36	58
	キャリア発見イベント	1～2	全員	企業採用担当者3社の体験の質疑応答	対面		26	81
	面接の模範回答＋ChatGPT活用した回答	3・院1	希望者	面接の必須質問である自己PR・ガクチカについてChatGPTを使って簡単に作成する方法をレクチャー	対面		13	―
	自己RPとガクチカ	3・院1	希望者	エピソードの棚卸、自己PR、ガクチカ骨子の書き方	対面		33	28

（２）面談関係

実施	タイトル	学年	対象	内　　容	実施	R6	R5	R4
6-9月	前期　個人面談	3 院1	全員	職務適性テスト結果を返却し、適性と希望進路の確認	対面		151	183
10-12月	後期　個人面談		全員	企業のエントリー、合同企業説明会の参加方法を確認	対面		86	109

（３）企業説明会関係

実施	タイトル	学年	対象	内　　容	実施	R6	R5	R4
6/26	OB・OG就職相談会	3・院1	全員	卒業生による就職、進路相談	対面		16	38
8/6、7	企業見学バスツアー	1～3	希望者	東部4社、西部3社企業見学	対面		19	13
4-10月	キャリアcafé(全3回)		希望者	卒業生による進路相談　5/8:12　7/10:　　10/30:	対面		42	24
1/22	就活準備まとめ講座	3 院1	全員	企業選びの方法、説明会で聞くべきこと	Web		29	27
2/13	学内合同業界セミナー		全員	鳥取県内外の優良企業40社の紹介フェア	対面		121	102 95

（４）公務員試験対策講座・資格取得講座

実施	タイトル	学年	対象	内　　容	実施	R6	R5	R4
通年	公務員試験対策講座	全員	希望者	行政職（教養+専門）コース、行政職（教養+SPI）コース、 技術系（教養+専門）コース、警察官コース、消防官コース	対面 Web		42	29
通年	簿記講座	全員	希望者	簿記1～3級（1級　名、2級　名、3級　名）①7　②　③	Web		17	11
通年	FP講座	全員	希望者	FP技能検定2～3級　（2級　名、3級　名）①2　②　③	Web		6	2
通年	SPI対策講座	全員	希望者	R4年度新規事業　①1　②　③	Web		0	8

その他のトピックス

① 学内で公務員説明会を開催

公務員を志望する学生を対象に、令和６年４月２４日（水）に学内で公務員説明会を開催しました。

鳥取県、鳥取市、鳥取県警の採用ご担当者から、それぞれの業務内容を聞くとともに、キャリアプランや採用方法等について説明を受け、１００名近い学生が熱心に耳を傾けました。

また、第２部として、農業・林業・水産といった技術系の公務員を志望する学生を対象とした説明が行われました。

本学では、東京リーガルマインドと提携した格安の公務員講座を用意するとともに、専門試験に関しては教員が個別指導も行っており、毎年卒業生の１～２割程度が公務員に進んでいます。

２０２４年３月卒業生は、農林水産省、石川県、滋賀県、鳥取県、島根県、山口県等の職員や 各市町村職員等、２３名が公務員・教員に採用されました。

② 鳥取県内 JA と JA 共済連鳥取より「星空舞」を寄贈

令和６年４月１１日(木)、鳥取県内の３ＪＡ(JA 鳥取いなば、JA 鳥取中央、JA 鳥取西部)とＪＡ共済連鳥取より、「星空舞」６００kg(２kg×３００袋)を寄贈いただきました。

③ 2024 年度公立鳥取環境大学 学部・大学院入学式

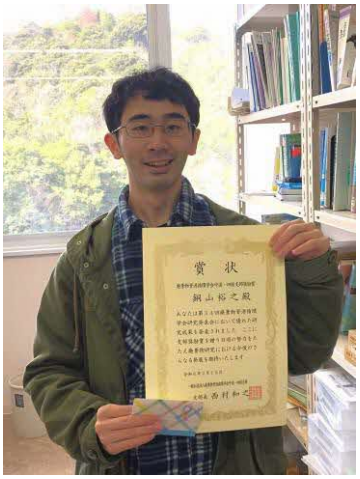
令和６年４月４日（木）、とりぎん文化会館梨花ホールで、２０２４年度学部・大学院入学式を挙行しました。学部生３２８名（環境１５９名、経営１６９名）、大学院生３名が入学しました。

④ 2023 年度公立鳥取環境大学 学位・大学院学位授与式

令和６年３月２０日（水）、とりぎん文化会館梨花ホールで、学位授与式を挙行しました。
学部生（環境１２９名、経営１３８名）、大学院生４名が卒業しました。

⑤ 環境経営研究科 I 年 銅山さんが、廃棄物資源循環学会 中国・四国支部の奨励賞を受賞

環境経営研究科 環境学専攻１年の銅山 裕之さん（金研究室所属）が、廃棄物資源循環学会（2023.9.11～9.13）で卒論研究の成果を発表し、同学会中国・四国支部の奨励賞を受賞しました。
発表名「しいたけ形成菌フタ材に用いる生分解性プラスチックの開発」



⑥ 学内合同業界セミナーの開催

令和６年２月６日（火）に、２０２５年春に卒業する大学生（現３年生）の就職活動が３月に解禁されるのを前に、県内外企業の魅力を知ってもらう合同業界セミナーを開催しました。

特に県内企業への就職を後押ししようと、金融業や製造業など県内２０社がブースを設け、１００人以上の学生が参加しました。

参加した県外出身の学生は「鳥取県内のいい企業を見つけられる説明会を開催してもらえるのはありがたいです。今は様々な業界を見ているが、徐々に絞り、自分に適する業界や分野を見つけていきたい。」と話していました。

⑦ 令和５年度公立鳥取環境大学とのSDGs連携事業報告会を開催

令和６年２月２０日（火）に「令和５年度公立鳥取環境大学とのＳＤＧｓ連携事業報告会」を開催しました。

鳥取商工会議所工業部会と本学の教員及び学生が連携し、企業の環境分野等における課題の解決に向けて活動し、課題解決を通じて、ＳＤＧｓの目標達成並びに学生の成長を目指しています。

令和５年度は、マルサンアイ鳥取（株）、菌興椎茸協同組合、（株）アサヒメッキの３社の課題解決に取り組みました。各団体の事業の趣旨説明が行われ、その後、本学から各団体の課題解決に取り組んだ内容等の報告を学生が行いました。

⑧ 第 20 回環大コンペの開催

環大コンペは「公立鳥取環境大学を支援する会」主催のイベントで、地域の課題解決に関する企画を学内から募集し、優秀な企画（団体）を支援するものです。令和６年２月９日（金）に最終審査を本学多目的室で実施しました。以下のとおり入賞企画が決定しました。

2004 年から始まり、節目となる第２０回目を迎えた環大コンペは、環境部門と社会部門からそれぞれ４組、合計８組からの応募があり、外来哺乳類調査の新たなアプローチ、地域と学生サークルが接続できる場所づくり、地域の伝統行事の継承などについて、環境大生らしい様々な視点から地域課題の解決を提案していました

【環境部門】
第１位　笈川＆近藤
「道路維持記録を用いた鳥取県における外来哺乳類の分布について」
第２位　Fluffy
「鳥取市中心市街地における学生でもできる地域猫活動」
第３位　なべ部
「学生の介入による地域活性化」

【社会部門】
第１位　交通研究同好会
「サークル展覧会」
第２位　うぐいつき広め隊
「うぐいつきの魅力発信、伝統文化の継承」
第３位　藤原洋希
「続・こちら公立鳥取環境大学生涯探求局です！
　～環大探求革命の実践～」

令和6年度第1回公立大学法人公立鳥取環境大学評価委員会の進行等について

資料　2

総合教育推進課
令和６年５月１６日

■令和6年度の評価スケジュールについて

➤今年度は、令和5年度業務実績評価及び第2期中期計画期間における業務実績の最終評価を行います。

5 月 16 日　第1回評価委員会開催（意見交換等）
6 月下旬　大学が業務実績報告書を評価委員会へ提出
7 月 8 日　第2回評価委員会開催（大学から業務実績報告書の内容説明、質疑応答）
7 月中旬　第2回評価委員会で出た確認事項・意見について大学から回答
7 月中旬　業務実績評価書案を作成
7 月 24 日　第3回評価委員会（業務実績評価書案の審議）
7 月下旬　第3回評価委員会で出た意見を反映させた案について書面審議
8 月上旬　新生公立鳥取環境大学運営協議会で評価結果を報告
9 月　鳥取県・鳥取市9月議会へ上程

■第1回委員会の時間割等

日時　令和6年5月16日（木）午後1時30分から午後4時まで
場所　公立鳥取環境大学　大会議室
（時間割）

時刻	時間	内容	参加者
13:30　～　13:40	10 分	1　開会 （事務局説明）	委員、事務局
13:40　～　14:20	40 分	2　学生との意見交換 （委員自己紹介、学生自己紹介、質疑）	委員、事務局、学生4名（各学部2名）
14:20　～　14:50	30 分	3　教員との意見交換 （委員自己紹介、教員自己紹介、質疑）	委員、事務局、教員2名（各学部1名）
14:50　～　15:00	10 分	＜休憩・入替＞	
15:00　～　15:30	30 分	4　大学幹部との意見交換 （学長挨拶、大学の近況報告、意見交換）	委員、事務局、大学幹部（学長他）
15:30　～　16:00	30 分	5　令和6年度の評価実施方法に係る意見交換	委員、事務局

■「2　学生との意見交換」について

学生4名は同時に入室します。
➤委員自己紹介、学生自己紹介、学生への質問、の順で進行を進めます。
➤同席する大学スタッフは学務課長のみとし、学生が遠慮なく話をしていただけるよう配慮します。
（※後ほど、大学側に、意見の内容を伝える際は、なるべく個人が特定されないよう配慮を行って下さい。）
➤学生への質問について、事務局でテーマ設定等は特段行いません。以下は、過去に委員から出された質問ですので参考にして下さい。
（令和4年度）環境大学を選んだ理由、鳥取又は大学に来て感じたこと、大学への希望、大学で取り組みたい事、大学の魅力、鳥取で就職する意思の有無、就職に活かせたと感じる大学での学び
（令和5年度）環境大学を選んだ理由、入学後の感想（ギャップ含め）、教員との関わりの深さ、資格取得の学習、大学への希望、鳥取で就職する意思の有無

■「3　教員との意見交換」について

➤委員自己紹介、教員自己紹介、教員への質問、の順で進行を進めます。
➤遠慮なく話していただけるよう、他の大学スタッフの同席は行いません。
➤教員への質問について、事務局でテーマ設定等は特段行いません。以下は、過去に委員から出された質問ですので参考にして下さい。
（令和4年度）オンライン授業で困った点や学生の変化、両学部合同で実施するフィールドワーク等の活動の有無や課題、学生への思いや提案、研究を進めるうえで必要な環境整備等
（令和5年度）学生の特徴、両学部合同でのフィールドワーク等の有無や課題、授業を進めるうえでの工夫、大学でのchatGPT の使い方、研究を進めるうえで必要な環境整備等

■「4　学長あいさつ・大学の近況報告、意見交換」について

➤大学からの近況報告の後、意見交換をお願いします。